

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	コミュニティバス運行助成事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	1	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	都市政策室			
施策	322利便性の高い公共交通体系の充実	担当課室長	佐瀬 功			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	コミュニティバス運営に関する検討委員会を設置し、土、日曜日の運行、1日の運行本数の増便、定時性の確保、路線の拡張等の利便性の向上について検討を行う。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	コミュニティバス運行業者をプロポーザルで決定し、土、日曜日の運行、1日の運行本数の増便、定時性の確保、路線の拡張等を盛り込んだ運行計画を実施する。
②①に基づく取り組み結果	検討委員会で新たな運行計画(案)をまとめた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	交通不便地域の住民、高齢者を中心とした移動手段弱者	意図(対象をどうするのか)	交通手段の確保
②事務事業の概要	市内4ルート(東線、東線2、南線、西線)に分け月曜日から金曜日まで、1日4便から6便の運行経費から運賃収入を引いた金額に対する予算の範囲内での補助金の支出 平成28年度内に土、日曜日の運行、1日の運行本数の増便、定時性の確保、路線の拡張等を盛り込んだ運行計画を実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	・平成23年度から平成25年度までは、約3%の利用客が増えていたが、平成26年度は、約4%、平成27年度は、約1%の減となった。運行車両の老朽化による買替時期が来ている。 運行の定時性確保の要望、行ルートの改編要望、バス停のベンチ設置要望、運行計画の変更により、年間10万人の利用客を見込む			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	利用客数 74,075人(前年比1.0%減) 収支率 22.7%(増減なし)						
②成果を表す指標	指標名称		平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i	コミュニティバス利用者数	78,036	74,771	74,075	人	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算		
事業費(千円)	20,149	20,182	金額(千円)	内容	37,778		
国支出金(千円)	0	0	102	報償費	0		
県支出金(千円)	0	0	20,080	補助金	0		
市債その他(千円)	5,000	5,000			5,000		
一般財源(千円)	15,149	15,182			32,778		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	土、日の運行、定時性の確保、増便の要望がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	1低い		
③上記評価の理由	現在、コスト的には低いと考えるが、高齢化社会の対応として、地域活動や生涯学習などの参加からコミュニティバスの運行は必要不可欠である。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	補助金	平成27年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	補助金	21,023	21,023	当初	21,023	H26からの繰越	0
				H26⇒27繰越	0		
③達成状況	完了			補正	0	現年分	20,182
④未完了・非着手の理由				流用・充当	0		
		平成28年度への繰越額(単位:千円)		0			

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	北総鉄道耐震化助成事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	1	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	都市政策室			
施策	322利便性の高い公共交通体系の充実	担当課室長	佐瀬 功			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	新規事業のため、前回掲げた内容なし	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	高架橋柱補強 504本 落橋防止 13.5連
②①に基づく取り組み結果	なし		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	高架橋柱、橋脚、橋桁	意図(対象をどうするのか)	首都圏直下型地震等による高架構造物の倒壊を防ぐ
②事務事業の概要	高架橋柱補強1474本、落橋防止34連、橋脚補強3.0基の補強工事に對し、国、県、関係6市による工事費の補助を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	熊本での地震により、公共建築物、高架構造物の耐震性については、市民の関心が高まっていると考えられる。平成29年には、596本の柱の補強、1基の橋脚補強、14連の橋の落橋防止工事を行い、補強工事が完了する。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	高架橋柱補強374本、落橋防止6.5連、橋脚補強2.0基の工事に對し、鎌ヶ谷市負担分として17,282千円の補助を行った。				
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	算定根拠
	i 高架橋柱補強	-	-	374本	業務取得
	ii 落橋防止	-	-	6.5連	業務取得
	iii 橋脚補強	-	-	2基	業務取得
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算
事業費(千円)	-	17,282	金額(千円)	内容	23,321
国支出金(千円)	-	-	17,282	補助金	-
県支出金(千円)	-	-	-	-	-
市債その他(千円)	-	-	-	-	-
一般財源(千円)	-	17,282	-	-	23,321

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	高架橋柱補強 374本/1474本 25.3%が完成 落橋防止 6.5連/34連 19.1%が完成 橋脚補強 2.0基/3.0基 66.7%が完成		
②評価	i 市関与の妥当性 3高い ii 有効性 3高い	iii 公平性 3高い iv 効率性 3高い	v 総合評価 6精査・検証
	③上記評価の理由 首都圏直下型地震は、30年以内に70%程度の確率で起こると想定されており、対策を進めておく必要がある。		

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	補助金	平成27年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	補助金	17,284	17,284	当初	17,284	17,282	H26からの繰越
				H26⇒27繰越			
③達成状況	完了			補正		現年分	17,282
④未完了・非着手の理由		平成28年度への繰越額(単位:千円)					0

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	新京成線連続立体交差事業	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	322利便性の高い公共交通体系の充実	担当課室長	倉田 淳			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	事業の進捗を図るため、事業主体である千葉県及び関係機関と調整するとともに、必要な財源の確保を図る。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	事業の進捗を図るため、事業主体である千葉県及び関係機関と調整するとともに、必要な財源の確保を図る。
②①に基づく取組み結果	事業主体である千葉県及び関係機関と調整を行い、必要な財源の確保を図った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	新京成線高架橋	意図(対象をどうするのか)	関係機関と調整し、高架を実現させる(地元負担金を支払う)。
②事務事業の概要	本市の東西を走る新京成線を高架化し、踏切遮断による交通渋滞や市街地の分断等を解消する目的で、県が事業主体となり事業を施行する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新京成線の踏切遮断による交通渋滞、踏切事故や都市の安全性、快適性に遅れが生じていることにより、踏切を早く除却するように求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	高架橋築造工事					
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i 用地取得率(取得済/用地面積)	100	100	100	%	業務取得
	ii 事業進捗率(事業費ベース)	65	77	84	%	業務取得
	iii 鉄道駅乗降客数(1日当たり)	190,011	187,586	調査中	人	統計かまがや
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算	
事業費(千円)	613,444	382,256	金額(千円)	内容	773,846	
国支出金(千円)			382,256	県事業への負担		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)	552,300	329,900			675,000	
一般財源(千円)	61,144	52,356			98,846	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	踏切により交通渋滞が多く、市街地が分断されている。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	市民から早期完成が求められているため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	負担金	平成27年度事業費の状況(単位:千円)				
		計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	県に負担金を支出した。	382,303	382,303	当初	608,326	H26からの繰越
				H26⇒27繰越		
③達成状況	完了			補正	▲226,023	382,256
④未完了・非着手の理由				流用・充当		現年分
		平成28年度への繰越額(単位:千円)				382,256